



淀川愛好会 YODORIC NEWS

No.87 2019 年 9 月 発行

〈社会人の窓 7〉

「流域」連携からさらに「流域圏」連携へ

会長 澤井健二

昨年の 6 月号で石中さんが紹介された「流域思考」が随分反響を呼び、今年の 5 月 18 日には「琵琶湖・淀川流域圏シンポジウム」の開催に至りました。「流域」とは水系に「降水が集まる地域」すなわち「集水域」を表す言葉で、「流域治水」に代表されるように、流域全体で物事を考えなければ、適切な対応ができないというご指摘であったように思います。

淀川愛好会においても当初から「流域連携」に重きを置き、活動を展開してきました。私たちが 1999 年に始め、今年で 21 回目を迎えた「水環境交流会」も、第 1 回は「琵琶湖・淀川流域水環境交流会」と銘打っていました。「琵琶湖」は「淀川流域」の一部ですから、ことさら「琵琶湖・淀川流域」と言わなくても当然含まれるのですが、「琵琶湖流域」が「淀川流域」の約半分の面積を占めることもあって、その重要性に鑑み、「琵琶湖・淀川流域」という言葉がよく使われます。

さらに「流域圏」という言葉がありますが、これは「集水域」だけでなく「配水域（給水域）」をも含めた地域を表します。たとえば、「琵琶湖・淀川流域圏」といえば、「琵琶湖・淀川流域」だけでなく、「琵琶湖・淀川流域」の水が水道水として供給されている地域、すなわち「阪神地域」、「奈良盆地」、「泉州地域」を含みます。給水は必ずしも水道だけでなく、灌漑用水路もあります。たとえば、「中河内平野」は、大和川の水が農業用水として、今でも供給されています。この意味で、中河内平野は「淀川流域」の一部であるとともに、「大和川流域圏」の一部でもあるのです。

ところで、治水の観点からすると、もうひとつ「氾濫域」という言葉があります。これは、洪水時に氾濫した水が到達する地域をさし、通常はその水系の流域の一部にとどまりますが、場合によっては、隣接する流域にまたがる場合があります。「大阪平野」はもちろん「淀川の氾濫域」にありますが、「大和川の氾濫域」にもなっているのです。また、大阪平野は大阪湾に面していることから、「大阪湾の氾濫域」にもなっています。このように、異なる流域に属してはいても、隣接する流域は互いに影響し合っているのです。そこで、「流域連携」にとどまらず、「流域圏連携」が重要となるわけです。

隣接する流域としては、このように「海域」を介して隣接している流域と、「分水嶺」を介して隣接している流域がありますが、ここでは、海を介して隣接している流域とその海を合わせた圏域を「沿岸流域圏」と呼ぶことにします。そうすると、「琵琶湖・淀川流域圏」は「大阪湾沿岸流域圏」の一部ということになります。大阪湾沿岸流域圏にはほかに「大阪湾」そのものと「淡路島東部流域」が含まれます。その中で、面積から言っても人口から言っても、「琵琶湖・淀川」の占める割合は極めて大きいため、私は新たに「琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏」という言葉を用いてはどうかと考えています。

「森・川・里・海」をつないで一体のものとして捉えなければならないということが指摘されて久しくなりますが、最近では「マイクロプラスチック問題」や「海の貧栄養化問題」など、新たな問題も浮上してきています。海をも含めた「流域圏連携」がますます重要となっているのではないのでしょうか。

（摂南大学名誉教授、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会代表幹事）

イベント案内（詳細は 3 ～ 4 ページ参照）

流域見聞「亀岡～嵐山」

日時：11月17日（日）10：00～15：00

流域見聞「木津川中下流～伊賀上野バスツアー」

日時：12月14日（土）10：00～16：30

イベント報告

令和元年度 第1回 寝屋川再生ワークショップ

7月17日(水)に寝屋川市役所の上下水道局で寝屋川再生ワークショップが行われました。今回のワークショップでは、各班に分かれて優先整備箇所の内、寝屋川起点、友呂岐水路、木田地内水路の3候補地を今後どのように活用し、整備していくかを話し合いました。私の班では主に、友呂岐水路に関する整備や舟下りなどの意見をとりまとめ、発表しました。ここは寝屋川市内における桜の名所のひとつとなっており、舟着場や水辺等を整備することにより、水辺のにぎわいにつながります。現在舟着場はありませんが、これを機に、水辺に親しめる空間を整備していくことが期待されます。(K・Y)



班による話し合い

淀川愛好会 夏のイベント 近畿水環境交流会 in 宇治川・伏見みなと

7月27日(土)、28日(日)に近畿水環境交流会 in 宇治川・伏見みなとが行われました。一日目の京都大学防災研究所オープンラボラトリーでは、午前には子どもの水辺活動に関する発表があり、午後は、近年の水災害への防止軽減策や巨椋池遊水地構想、各団体の活動紹介を行いました。二日目の伏見みなと広場では、朝から清掃活動を経て、伏見十石舟の乗船体験を行いました。その後は、三栖閘門資料館を見学しました。また、他の体験として、川柳を詠んだり、キーホルダーを工作しました。午後からは、Eボートレースを行い、「ギョッターズ」(大阪府河川室)が優勝し、連覇しました。前日に大雨が降ったことにより、水位が上がっていないか不安でしたが、無事開催できて良かったです。(M・K)



十石舟の内部

淀川まるごと体験会

8月4日(日)に点野砂州で淀川まるごと体験会が開催されました。今年から熱中症対策などの安全管理の面から、12時までと時間が短縮されました。Eボート体験や大木のブランコ、SUP体験、ヤギの除草実験、ヨシ笛づくりなどの自然と触れ合える遊びを体験してもらいました。最後には大阪府枚方土木事務所により、防災に関する啓発と非常食の配布が行われました。これからも子どもたちに自然に触れ合ってもらい、興味を持ってくれることを願っています。(T・R)



カヌー体験

シニア自然大学校

9月7日(土)に摂南大学にて、シニア自然大学校講座が開催されました。

午前中は澤井先生による、人と自然の共生を図る水辺の保全・活用についての講義と石田先生による、淀川の生物環境や寝屋川の水辺整備についての講義が行われました。参加者にはより一層、河川環境について理解を深めていただけたと思います。

午後にはEボート体験をしてもらいました。Eボート体験では、救命ボートのエンジンがかからないなどのトラブルはありましたが、シニアの方々の生き生きとした表情が見られ、私自身も元気をもらいました。この体験からもっと色々な人にEボートを体験してもらいたいと思いました。(T・R)



石田先生による点野の説明の風景

巨椋池流域見聞

9月14日(土)午後、「淀川流域勉強会」と「水辺に学ぶネットワーク」の主催イベントとして、第4回となる巨椋池流域見聞に参加しました。宇治川オープンラボラトリーに集合した後、マイクロバス2台に分乗して、干拓前の巨椋池の水際線の近くを見学したのち、宇治川オープンラボラトリーに戻り、講演・討論を行った後、夕食をとりながらお月見と音楽鑑賞をするという贅沢なプログラムでした。講演会では、立命館大学の武田史朗教授によるオランダの河川改修に学ぶ、流域を柔らかく住みこなすという22世紀の川との付き合い方について話していただきました。巨椋池の歴史と文化の理解を深めることのできた、有意義な1日でした。(M・K)



バスでまわる巨椋池干拓地

令和元年度 第2回 寝屋川再生ワークショップ

9月16日(月)午後、友呂岐緑地で第2回寝屋川再生ワークショップが行われました。

まず京阪萱島駅から寝屋川市駅まで緑道を散策する見学会があり、その後、寝屋川市産業振興センターで、友呂岐水路の整備・活用の在り方について各班に分かれ議論が行われました。私の班では良かった点として上流の水質が良好だったことや歩道が整備されており歩きやすかったという意見が出ました。また悪かった点として下流の水質があまり良くない、水路に下りにくく水辺に親しみにくい、休憩するベンチが少ないという意見が出ました。これらに対して今後は、水質改善に藻を適切に管理する、舟着き場を整備する、水辺にも近づける空間を整備することにより、友呂岐緑地が今以上に人々の生活に寄り添うものになれば良いと思いました。

(K・Y)



市職員による説明

今後のイベント詳細

川の恵みを活かすフォーラム・アユの食味会

日時 2019年10月27日(日) 11月2日(土)
場所 京都大学 防災研究所宇治川オープンラボラトリー

流域見聞「亀岡～嵐山」

日時 2019年11月17日(日)
集合 9:30 JR 亀岡駅北側ロータリー
10:00-12:00 亀岡盆地霞堤見学(マイクロバスで移動)
説明者 大阪商業大学 原田禎夫准教授
12:00-13:00 昼食休憩
13:00-15:00 保津川下り、嵐山付近桂川改修見学
解散 15:00 渡月橋
参加費 2000円 定員 20名
申込 11月10日までに淀川愛好会事務局へ
主催 水辺に学ぶネットワーク 支援 (一社) 近畿建設協会



第12回 茨田イチョウ祭り

日時 2019年11月24日(日)
場所 茨田碑遺跡水辺公園(寝屋川市点野)

流域見聞「木津川中下流～伊賀上野バスツアー」

日時 2019年12月14日(土)

集合 9:30 さくらであい館(京阪電車八幡市駅から北へ徒歩約10分)
10:00-12:00 木津川中下流部バス見学
12:00-13:00 昼食休憩(道の駅お茶の京都みなみやましろ村)
13:00-15:00 上野遊水地、上野城周辺見学
15:00-16:30 帰路
解散 16:30 JR 京都駅
参加費 無料 定員 50名 申込 12月7日までに淀川愛好会事務局へ
主催 水辺に学ぶネットワーク 支援 (一社) 近畿建設協会



〈学生の窓 7〉

ゼミ活動での半年間

矢口 翔太

生態環境学研究室に配属されて、もう半年が過ぎ、研究生の活動はそれぞれ後半にさしかかろうとしています。前期は、慣れない活動に一生懸命で、教育実習でも必死だったためか、あっという間に時間が過ぎていたように感じます。

私は芥川における天然アユの遡上傾向と産卵区域について研究しています。4月22日から7月14日まで、アユの遡上調査を行っていました。今年は雨が少なく、前半はなかなか遡上を確認することは出来ませんでした。しかし、今年設置された魚道をアユが遡上しているなど、嬉しい知らせもありました。秋には、アユの産卵場整備と仔魚調査が計画されています。また後期からは、研究により一層励んで行こうと思います。

私の夢は教師になることなので、ゼミに所属する前までは、夢への直接的な繋がりを感じていませんでした。しかし、その考えは活動を通してなくなりました。自然と触れ合うこと、また自然を愛する方々と関わることは、将来人と関わる仕事をを目指す私には必要な力だと感じました。残り半年間も悔いの残らぬよう一生懸命励んでいきたいと思っています。

(摂南大学 理工学部 都市環境工学科 4回生)

お見舞い

先般の佐賀県を中心とした豪雨災害、台風15号に伴う関東地方の被害、高槻市芥川で発生した水遊び中のお孫様とご老人の溺死等、今年も各地で多くの水害や水難事故が発生しました。謹んでお見舞い申し上げますとともに、お互いの安全対策に一層心がけたいと存じます。

編集後記

淀川愛好会・ヨドリックニュースの編集長を喜んで気持ちよく引き受けさせていただき、今なお、思うことは、不安と期待に思う、さざ波のような船出でありましたが、いざ取り掛かってみると本当にイベントが多く、多くのイベントを知らないことを思い知らされた大波のようなプログラムがありました。それでも、ヨドリックニュースを84・85・86号と無事に編集して、発行することになりました。編集後記についても、3回も執筆させていただきました。

87号の編集会議は、巨椋池流域見聞前の9月のはじめとなり、そして(社会人の窓7)には、淀川愛好会・会長である澤井健二先生自から、琵琶湖・淀川流域シンポジウムの記事を執筆くださることで、美しい華を添えることで素晴らしいヨドリックニュース87号になることを確信しました。

イベントに参加する機会が限られている中での編集長として役割と編集は、数多くのイベントに参加される石田ゼミ、エコシビル部の学生に助けていただいて何となく進行しております。イベントに参加している学生は、授業の一貫のように見えて大学の授業ではないので、大学の単位ということに苦勞しております。イベント報告は、書きたいことを書き、相手に場をわかりやすく伝えるように起承転結に書けば「いいじゃない!」と伝えております。報告書を担当する学生には感謝の念でいっぱいあります。

水辺に学ぶものとして辛いニュースが9月7日の午後にありました。大阪府高槻市の芥川は、自然豊かな歴史ある川で、美しい景観の川である芥川に、悲しい出来事の水難事故がありました。

最後に、4月から編集員に任命された石田ゼミの原田将志君、金田悠登君、高野凌君たちに、原稿のとりまとめと発行に際しての迅速な対応に、編集長としてうれしい所存であります。ありがとう!

淀川愛好会事務局：〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内

TEL/FAX：072-839-9125

HP：<http://www.setsunan.ac.jp/civ/yodoric>

E-mail：ishida@civ.setsunan.ac.jp